

横浜能楽堂 令和5年度指定管理業務評価（外部評価）

	諸貫委員	高橋委員	横山 委員
使命1 能 狂言その他の古典芸能の振興・発展 に寄与する	<p>【評価できる点】</p> <p>自主事業について、普及目的のものから企画性の高いものまで様々な公演を実施し、いずれも券売率や入場者数の目標をほぼ達成したことを評価します。また、講座やワークショップ、大学との連携や展示についても着実に実施することによって、使命の達成に向けて努力されていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修中も市民に寄り添い、かつ先鋭的な横浜能楽堂らしい取組を期待します。</p> <p>非常に充実した広報活動を展開されていますので、今後も横浜市をはじめとした各機関と連携して能・狂言、横浜能楽堂の認知度向上に尽くされることを期待します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>趣向を変えた様々な公演を企画し、多くの来館者につながるような工夫をしている。開館28周年での中締め特別公演として、大槻文蔵の「鷲」を上演したのは、演者・曲目ともふさわしい企画であったといえる。企画公演「この人 この一曲」は、能装束研究者・歌人・能楽研究者の選んだ曲を、専門家ならではの見どころ解説と共に演じており、人選・選曲も面白く、関連展示も含め、企画力を高く評価できる。雅楽、琉球芸能、日本舞踊、東大寺修二会の声明などの上演も、日本の諸芸能を紹介し関心を喚起する取り組みとして意義があり、新作能「青衣女人」と声明のコラボレーションのように、能と組み合わせた点も良い。体験ワークショップや入門講座なども含め、能に親しむ機会を様々に提供し、能楽や古典芸能の振興について、能楽堂として役割を果たしている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>広報は、SNSなどの新しい媒体を用いつつ、効果的な方法を模索していると思われるが、この点は反応をみながら継続して取り組んでほしい。</p> <p>また今後、大規模改修による休館となる中でも、能に関する情報発信を続け、市内の別施設を利用した企画の実施なども含め、これまで横浜能楽堂に通っていた能楽ファンとのつながりを大切にしていきたい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大規模改修前の最終年度として充実した取組みを実施され、券売率や入場率、満足度の高さからも素晴らしい成果を収められたものと拝察します。能、狂言その他の伝統芸能にわたるラインナップに加え、雅楽とコンテンポラリーダンスとのコラボレーションといった新たな展開についても古典芸能の進行・発展に寄与する取組と評価できます。</p> <p>新規顧客開拓に向けた取組を積極的に進められ、実践のみならず、現状分析から課題解決に繋がられている点、取組の実践だけでなく、効果測定を実施し、その結果にもとづき次の対応方針を検討されている姿勢を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修期間中、仮拠点ならではの取組みに期待します。</p>
使命2 能楽等に携わる人材を育む	<p>【評価できる点】</p> <p>こども狂言堂をはじめとした次世代育成のための各種事業を着実に進めており、教育現場からも高い評価を得ていることを評価します。また、「夏休みこども相談会」の新規取組を行った積極性を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>先生のための狂言講座」は大切な事業かと思しますので、ぜひ多くの教員の参加を促してほしいです。</p> <p>また、5年度の人材育成事業は狂言に重点が置かれていたようでしたので、次年度以降は能と狂言をバランス良く実施していただくことを期待します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>こども狂言堂や、こども狂言ワークショップなど、小さいうちから能楽等に関わる機会を提供しており、子どもに教える立場の先生のための狂言講座も含め、人材育成につとめており、満足度も高い。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>先生のための狂言講座については、人数面で目標値には達しなかったとのことで、満足度が高いだけに、今後より多くの先生に参加してもらえるような広報を期待したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>継続的に実施する事業に加え、新規の取組みなど、時勢を見極めながら人材育成に真摯に取り組まれていると感じます。こども狂言堂の券売率は高い水準であることに加え、オンラインで質問を受け付ける「夏休みこども相談会」の実施など、次代を担う子供たちの目線に合わせた企画立案をなされている点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>今後、自ら情報発信できる世代に対するアプローチも検討されることを期待します。</p>
使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる	<p>【評価する点】</p> <p>貸館の利用率、利用料金収入が目標を達成したことを評価します。</p> <p>利用者への休館中の代替施設の情報提供など細やかな対応をされ、今後の関係性を継続する努力をされたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特にございません。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>本舞台・第二舞台とも、前年度の利用率を上回っており、また利用者の満足度も高い。休館に際して、これまでの施設利用者にニーズの聞き取りを行い、代替施設の情報提供したことも、横浜能楽堂の今後の活動につながる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>休館を挟むことから、これまでの利用者に、リニューアルオープン後も利用してもらえるようなサポートを、引き続き期待したい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>貸館利用は前年比増かつ高い満足度を得るなど素晴らしい成果を達成しています。フェイストゥフェイスで丁寧に利用者ニーズを把握し、自主事業開催時の会議室利用の課題等、具体的な改善点を導出されている点と併せて評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>情報を提供した施設利用者等に対しては、代替施設の使い勝手などのご意見を伺い、今後活かして頂くことを期待します。</p>

横浜能楽堂 令和5年度指定管理業務評価（外部評価）

	諸貫委員	高橋委員	横山 委員
使命4 能楽等や施設の魅力を発信を行う	<p>【評価する点】 見学会や動画配信、SNS などでの情報発信が積極的になされたことを評価します。 特に対象を様々に想定した見学会は場合によっては目標を達成していないものの、今後に向けて新規取組も行った積極性は評価したいと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 休館が始まり、OTABISHO での横浜能楽堂や伝統芸能の魅力発信に期待します。 試行錯誤された見学会はぜひ今後活かしてほしいです。</p>	<p>【評価する点】 様々な媒体で広報活動をしており、特に X で 499 回のツイートを行っているのは今の時代に合った広報戦略と思われる。横浜能楽堂の魅力を伝える動画の製作も、今後も活用できるものとなるだろう。また、施設見学会も様々な形でっており、12 月の休館前特別施設見学会では、2 日間で 779 人の来場者があり、その中で初めての来館者の割合が 58%に上ったことは特に評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 令和 6 年度も、OTABISHO 等において能楽の魅力や、歴史ある横浜能楽堂の舞台の意義を伝え、リニューアルオープン後も多くの方に足を運んでもらえるような発信を期待する。</p>	<p>【評価する点】 魅力の発信を目的とする事業にも積極的に取り組み、横浜能楽堂の魅力自体の発信に注力され、媒体への露出も増加しています。また、専門家の支援を得て広報手法に関する分析を実施するなど、戦略的に取り組まれている点と併せて評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 SNS 活用方針の検討にあたっては、発信に対するリーチ等の指標を活用した効果測定に注目し、回数によらず効果的な発信で、多くの方に魅力が伝わることを期待します。動画配信は即時的効果だけでなく、アーカイブとしての持続的な魅力発信に繋がるとの観点から、今後もコンテンツの蓄積に取り組まれることが望ましいと考えます。</p>
使命5 施設運営を行う 持続可能性を高める	<p>【評価する点】 定期的な保守点検や必要な修繕が適切になされたことを確認しました。 チケット収入と利用料金収入が予算を上回って得られたことは喜ばしいことです。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 休館で収支構造が大きく転換しているものと思います。収支バランスを考慮しつつ事業運営することは大変かと思いますが、事業があまり消極的にならないためにも今後も財源を確保されるよう期待しています。</p>	<p>【評価する点】 開館以来 27 年目となり老朽化した能楽堂を、改修休館の前まで、日常点検の積み重ねによって、トラブル等なく運営することができた。事業収入・利用料金収入も、予算を上回っている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にございません。</p>	<p>【評価する点】 利用料金収入、自主事業収入共に予算を上回ったことに加え、維持管理費を抑制した点を評価します。移転費の上振れの抑制にも寄与しています。経年劣化が進行する状況下において、一定の修繕費の範囲でトラブルなく休館を迎えられたことは日頃の維持管理に丁寧に取り組まれた成果と拝察します。設備に関する施設利用者の要望を改修計画に反映するなど、然るべき措置を講じられている点と併せて評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にございません。</p>
使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する	<p>【評価する点】 市のガイドラインに沿って感染症対策を講じたことを確認しました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にございません。</p>	<p>【評価する点】 新型コロナウイルス感染症の5類移行をふまえ、対応を変えつつも、市のガイドライン等に即して、換気等に留意した運営を続けている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にございません。</p>	<p>【評価する点】 トラブルもなく、適切な運営を継続されているものと拝察します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にございません。</p>

横浜能楽堂 令和5年度指定管理業務評価（外部評価）

	諸貫委員	高橋委員	横山 委員
その他	特にございません。	特にございません。	特にございません。
総括	<p>公演事業、教育普及事業、さらには能楽堂の魅力発信など2年目の指定管理業務がしっかりとなされたものと評価します。特に休館に向けて利用者への情報提供が着実になされ再開館後の関係が継続するよう努力されたことは特筆に値します。次年度以降事業の実施場所の確保と広報、集客さらには財源確保など困難な仕事が続くでしょう。職員の皆さんの健康面を配慮しつつ休館中の事業と改修後の躍進に期待します。</p>	<p>大規模改修による休館を前に、「開館 28 周年謝恩 中締め」として複数公演を行ったのは、休館と今後のリニューアルの両方を意識してもらいつつ、休館前の来場を呼び掛けた工夫として評価できる。公演内容も、大槻文蔵の「鷺」や、雅楽、琉球芸能、日本舞踊、東大寺修二会の声明など、中締めにあふさわしい充実したものであり、新作能「青衣女人」と声明のコラボレーションのように、能と組み合わせた企画も良かった。企画公演「この人 この一曲」のように、企画力のある面白い公演も実施している。また、体験ワークショップや入門講座、子ども向けの公演やワークショップなど、能に親しむ機会を様々に提供し、能楽や古典芸能の振興に役割を果たしている。来館者や利用者の満足度も高い。</p> <p>令和6年度も、OTABISHO 等において能楽の魅力や、歴史ある横浜能楽堂の舞台の意義を伝え、広報を行って、リニューアルオープン後も多くの方に足を運んでもらえるような取り組みを期待する。また、改修工事を問題なく進めていくと共に、リニューアルオープン後に継続して多くの方に来館していただけるよう、準備を進めてほしい。</p>	<p>改修前最終年度に相応しい成果を上げられたものと拝察します。目標を大きく超過する実績も多いこと、効果測定に加えて要因分析まで実施するなど、今後につなげる取組み・姿勢を評価します。</p> <p>休館中は、限られた体制で、仮拠点での事業や他館での公演等に対応し、苦慮することも多いものと思われます。予測困難な経済情勢下でのコストコントロールと併せて、安定した運営となることを期待します。</p> <p>仮拠点における立地特性を活かした広報や市内他館での公演は、新規顧客開拓、課題となっている市民の認知度向上に向けた取組みを展開する好機とも考えられます。</p> <p>「中締め」の高揚を今後への期待に繋げ、休館中の取組みが再開館時の新たな魅力創出の推進力となることを期待します。</p>

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価		
(1)文化事業	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
<p>能楽愛好者の期待に応える特別公演シリーズや、新しい観客の創造も図る普及公演、オンラインを活用した事業等への取組【使命1】</p>	<p>【普及公演】 普及、能楽堂に足を運ぶ機会が少ない方、能・狂言にそれほど馴染みのない方を主な対象として、古典芸能に興味を持っていただくための公演</p>	<p>普及公演 「横浜狂言堂」</p>	<p>4～12月第2日曜日 全9回</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全9回</p> <p>85%</p> <p>3,717名</p>	<p>9回</p> <p>92.9%</p> <p>3,621名</p>	<p>狂言師のドキュメンタリー映像の第2弾のリリースにもなうポストの反響が大きく、YouTubeの視聴者数も順調に伸びました。当該の演者が出る8月開催の横浜狂言堂では初めての来場者が90名、入場者に対する割合は20%を超えました。それ以外に、毎公演後出演者に協力をいただき、狂言や公演にまつわるポストをするなど、SNSを利用した広報を積極的に行いました。</p>	<p>【成果】 企画公演「この人 この一曲」での能の見巧者それぞれの能への視点が、観客に新しい見方をもたらし、5回シリーズで行った「中締め」公演では、開館以来の集大成として、能・狂言だけでなく、雅楽、琉球芸能、日本舞踊、声明を新しい形で見せることができました。両シリーズで、2年半後の再開館に向けた期待を持ちかえっていただくことができましたと自負しています。 普及公演では、定番化した狂言堂に新たな観客を呼び込むために、令和4年度に続いて若手狂言師に密着したプロモーション動画を製作しました。SNSを中心に広報を行い、取り上げた狂言師が出演する回では、新規観客を増加させることができました。新しいツールを使うことで、チケット購入のわかりにくさなどの課題が見つかったほか、新しい連携先が見つかるなど、他の効果も得られることができました。 シリーズで行っていた「芸術監督講座」は、内容を明確にして広報したことで、当初の想定どおり、能・狂言を知らなかった参加者を多く集め高い満足度を得ました。</p> <p>【課題】 能・狂言の企画公演などは、友の会などの既存顧客や能・狂言関係の情報サイトなどに掲載することで、観客に情報を届けられていますが、普及公演などで新たな観客を呼び込む場合、ターゲットになかなか届かないという課題があります。今回の狂言堂では、主にx(旧:Twitter)での広報を試みましたが、その他のSNS(Facebook、Instagram、TikTok)はそれぞれ利用者が異なり、好む情報が異なっています。すべてに対応していくことは難しいため、ある程度ターゲットを絞った上で狙った層にダイレクトに訴求できるよう、戦略をもって対応していくことが必要だと考えます。休館中も、公演等のコンテンツを作ることはもちろんのこと、発信の仕方などの工夫もしていきます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・大学連携については、継続して連携した神奈川県大学に加え、新たな大学への施設見学や実技プログラムを実施することが確認できます。再開館後も大学生との連携事業についても引き続き実施できるよう、企画検討し、古典芸能に触れる機会を多く得られることを期待しています。 ・大規模改修工事により、横浜能楽堂(本館)が休館中も、市内の施設を利用した、親子向けや子どもをターゲットにしたワークショップを継続して実施されることを期待しております。また、普段行く機会がない横浜市内のエリアへ世代を問わずに対象としたワークショップを実施し、横浜能楽堂の施設及び事業が認知されることを期待しております。</p>	
	<p>【特別公演】 能・狂言の作品の中で「大曲」「秘曲」と言われるような見ごたえのある曲を、現代を代表する一流の演者がその曲を演じるに最もふさわしい時を捉えて最高の舞台を実現する公演</p>	<p>開館28年謝恩 横浜能楽堂「中締め」特別公演 第5回能・狂言</p>	<p>12月2日(土)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>75%</p> <p>365名</p>	<p>1回</p> <p>100.0%</p> <p>438名</p>	<p>長期休館前の特別公演シリーズ最後の回ということや、人間国宝の大槻文藏をはじめ、現代を代表する出演者を揃えた公演ということもあり、チケットは完売しました。能楽関係者や長年横浜能楽堂で鑑賞してきた愛好者などが多く来場し、名人の至芸を楽しみました。</p>		
	<p>【企画公演】 芸術・学術性があり、創造・発信性の高い公演</p>	<p>企画公演 「この人 この一曲」</p>	<p>4月30日、6月25日、7月16日</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全3回</p> <p>75%</p> <p>1,095名</p>	<p>3回</p> <p>100.0%</p> <p>1,347名</p>	<p>専門家ならではの視点で選んだ作品を、選んだ理由や見どころなどを話していただいた上で上演しました。チケットは各回とも完売。来場者の30%以上がセット券を購入するなど、高い注目が集まった公演となりました。第1回の公演では、立方10名が着用した衣装すべてで山口能楽研究所が復元した能衣装を使用し、その衣装を館内の展示スペースにて展示。当日来場できなかった方にも楽しんでいただくことができました。第3回では、能の詞章や上演内容を2か国語で字幕配信するサービスを実施。上演機会が少ない作品ということもあり、外国人来場者だけでなく、日本人来場者からも好評でした。</p>		
		<p>開館28年謝恩 横浜能楽堂「中締め」特別公演 第1回雅楽とダンス</p>	<p>8月5日(土)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>70%</p> <p>340名</p>	<p>1回</p> <p>70.8%</p> <p>356名</p>	<p>雅楽にコンテンポラリーダンスを組み合わせることで、新たな表現方法を観客に提示することができ、観客からも好評を得ました。また、公演に対する関心も高く、新聞3紙のインタビュー記事に加えて、その他メディア3つに記事に取り上げられました。</p>		
		<p>開館28年謝恩 横浜能楽堂「中締め」特別公演 第2回琉球芸能</p>	<p>9月9日(土)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>75%</p> <p>365名</p>	<p>1回</p> <p>100.0%</p> <p>462名</p>	<p>横浜とゆかりの深い琉球芸能の600年の歴史を総覧できる多彩な演目を一挙上演しました。チケットは早期に完売し、アンケート回答者の9割近くが公演内容に満足したと回答しました。本土では見る機会が少ない琉球芸能の上演に力を入れてきた横浜能楽堂のこれまでの取り組みが実を結んでいることが実感できる公演となりました。</p>		
		<p>開館28年謝恩 横浜能楽堂「中締め」特別公演 第3回日本舞踊</p>	<p>10月29日(日)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>70%</p> <p>340名</p>	<p>1回</p> <p>81.1%</p> <p>398名</p>	<p>能・狂言の演目にゆかりのある日本舞踊を華曲や長唄、常盤津など、様々な邦楽ジャンルとともに上演しました。普段の客層に定着していないジャンルだったこともあり、動画やSNSを活用した広報展開を行い、より広い層の来場につなげることができました。上演内容も、能舞台の空間を活かした演出を試みたことが、来場者から高く評価されました。</p>		
		<p>開館28年謝恩 横浜能楽堂「中締め」特別公演 第4回能と声明</p>	<p>11月26日(日)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>75%</p> <p>365名</p>	<p>1回</p> <p>100.0%</p> <p>456名</p>	<p>上演機会が少ない新作品「青衣女人(しょうえのによにん)」を東大寺修二の声明(しょうみょう)とのコラボレーションにより上演しました。2階から声明を聞かせることや、嵐島の明かりでの上演など、東大寺修二の雰囲気よりリアルに感じてもらえるよう、演出の工夫を凝らしたことが、来場者から好評で、能の新たな魅力の発信につながりました。</p>		
		<p>第70回横浜能 (共催:横浜能楽連盟)</p>	<p>6月18日(日)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>75%</p> <p>365名</p>	<p>1回</p> <p>93.4%</p> <p>458名</p>	<p>横浜能楽連盟と共催。横浜市在住の人間国宝・大坪喜美雄を始めとする、横浜にゆかりのあるシテ方五流の出演による公演を開催しました。能や狂言だけでなく、舞囃子や一調など能を様々な角度から楽しんでいただき、能楽の魅力を広く伝えることができました。</p>		
		<p>【その他公演】 能楽愛好家団体「横浜能楽連盟」やふるさと西区推進委員会、西区役所との共催で開催する公演</p>	<p>第39回横浜かもんやま能 (共催:ふるさと西区推進委員会、西区役所)</p>	<p>11月19日(日)</p> <p>□券売率 実売数/販売座席数</p> <p>□入場者数</p>	<p>全1回</p> <p>70%</p> <p>340名</p>	<p>1回</p> <p>89.3%</p> <p>400名</p>		<p>ふるさと西区推進委員会、西区役所主催。公演運営、広報協力を行いました。</p>
			<p>！追加実施 ①日本全国能楽キャラバン！横浜公演《協力公演》 (主催:(公社)能楽協会、(公社)金春円満井会) ②関連講座「初めてでもよくわかる能楽のおはなし」 (共催:(公社)金春円満井会)</p>	<p>①9月23日(土祝)</p> <p>②9月3日(日)</p> <p>②参加者数</p>	<p>1回</p> <p>1回</p> <p>100名</p>	<p>1回</p> <p>1回</p> <p>97名</p>		<p>公益社団法人能楽協会等の主催公演に協力する形で、能楽師による普及講座を実施。謡の体験などを盛り込んだ講座に、97名の参加がありました。</p>
		<p>おとな狂言ワークショップ (1回 全3日間)</p>	<p>8月18、25日、9月1日(金)全3回</p> <p>参加者数</p>	<p>全1回</p> <p>20名</p>	<p>1回</p> <p>29名</p>	<p>定員25名のところ、定員を超える応募があったため、30名に拡大して実施しました。</p>		
		<p>【ワークショップ/講座事業】 能楽師等を講師とした仕舞や狂言などを体験する大人向けのワークショップや能楽への理解を深める講座</p>	<p>能楽師が案内する横浜能楽堂と能楽体験ワークショップ (各回全3回、2種)</p>	<p>6月10日(土)、10月21日(土) 各日3回</p> <p>参加者数</p>	<p>全6回</p> <p>90名</p>	<p>6回</p> <p>114名</p>		<p>「ワキ方が案内する横浜能楽堂見学と能楽WS」と「狂言方が案内する横浜能楽堂見学と狂言WS[太郎冠者、あれこれ]」を各3回実施。応募者多数のため、定員15名のところ定員を拡大し、「ワキ方」は合計で59名、「狂言方」は合計55名の参加者を受け入れました。</p>
	<p>芸術監督による 能楽入門講座(全2回)</p>	<p>5月27日(土)、10月22日(日)</p> <p>参加者数</p>	<p>全2回</p> <p>200名</p>	<p>2回</p> <p>237名</p>	<p>内容を工夫し、能楽初心者や能楽堂に来館したことのない人に能に親しむ機会を提供しました。2回とも能・狂言を鑑賞したことのない方が半数を占め、狙った対象者に来館していただくことができました。</p>			

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

6	【展示事業】 能楽に関する基本的な知識を学べる「常設展」と企画公演の内容と運動した「特別展」を実施	「特別展」(展示ノ企画公演「この人 この一曲」関連、能装束)	5月3日～7月17日 □入場者数(本舞台入場者+見学者)	全1回 2,500名	1回 5,559名	企画公演「この人 この一曲」開催に併せ、第1回「大原御幸」で使用された、山口能装束研究所が復元した能装束を展示しました。期間中は、一般見学を可能としたため、目標を超える来場者が訪れ、能装束の美を楽しみました。また、期間中には研究所所長、山口憲による展示解説も行い、能装束の魅力により深く感じていただくことができました。	
		「常設展」(展示ノ2期)	上記特別展以外 □入場者数(本舞台公演入場者+見学者)	全2回 7,000名	2回 15,517名	常設展「初めての能・狂言」を公演日や見学実施日の公開として、特別展を除いた4月、7月～12月の2回実施しました。	
7	【大学連携の実施】 近隣大学の授業での講義提供 青少年向け事業及び、若手演者の起用	神奈川大学オンライン授業	□1件以上	通年	通年で実施 神奈川大学:2件 他大学:4件	過年度から続いている神奈川大学、横浜商科大学の授業や施設見学を今年度も実施しました。また新たな取り組みとして、京都芸術大学や横浜国立大学と連携し、プロデューサーによる解説と能楽師による実技を交えたプログラムを各1回実施し、参加者から好評を得ました。	
8	【アーカイブ事業】 古典芸能上演の記録として整備	過去の公演記録、映像の公開	公演記録の整理、公開	通年	実施	過去の記録及び保管資料を整理しました。	
1	次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施【使命2】	子ども、教員を対象とした事業	こども狂言堂	7月30日(日) □券売率 実売数/販売座席数 □入場者数	全1回 75%	1回 94.9%	教科書に載っている「柿山伏」とストーリー展開が分かりやすい「清水」を上演。券売率は昨年を上回り、目標を達成しました。また、来場者の内、約8割が親子でチケットを購入しての参加となり、多くの子どもたちに狂言に触れる機会を提供することができました。人間国宝の山本東次郎によるお話も狂言に対する理解が深まったと好評でした。
			幼児、児童向けお話し会	7月29日(土) 伝統文化一日体験オープナー □参加者数	実施	実施	横浜市中央図書館の協力により開催。実施会場を研修室とし、定員を①11:30～12:00(対象4～6歳)定員6組12名、②13:30～14:00(対象小学1～4年生)定員8名で実施しました。
			先生のための狂言講座	7月30日(日) □参加者数	全1回	1回	H29年から毎年継続して開催していること、横浜市の教職員にのみ広報してきたということもあり、参加者は70名(申込は75名)と目標に達しませんでした。参加者からは、山本東次郎のお話や講座後の施設見学などに高い関心が寄せられ、アンケートでは、回答者すべてが内容に満足したと回答しました。
			こども狂言ワークショップ入門編(全3日間)	7月31日(月)・8月1日(火)・2日(水) □参加者数	全1回	1回	第二舞台を会場とし、狂言の基礎や公演で事前に鑑賞した演目を演じる体験をしました。稽古風景を保護者が間近で見学することができ、参加者の子どもたちだけでなくその家族も狂言への理解と関心を深めることにつながりました。
			こども狂言ワークショップ卒業編(全10日間)	9月～12月 □参加者数	全1回	1回	少人数で集中して稽古を行いました。東京都内など遠方からの参加者が多かったため、プログラム終了後「いろはの会」で稽古を継続する参加者はいませんが、発表会では練習の成果を発揮することができました。
			横浜こども狂言会	12月24日(日) □参加者数	全1回	1回	「こども狂言ワークショップ～卒業編～」参加者と同ワークショップ卒業生有志からなる「いろはの会」とで、9曲の狂言を披露しました。
			夏休みこども相談会	8月 ※オンラインで質問募集、回答 □参加者数	実施	実施	夏休みの自由研究で古典芸能について発表できるよう、オンラインフォームを主とした相談室を開設しました。こども狂言ワークショップ受講生からの利用もあり、能・狂言への理解を深めてもらうことができました。
			横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム	9～3月 5校予定	全5校程度	5校	狂言の鑑賞と体験を3校、等の体験を2校、計5校で実施しました。
			狂言「柿山伏」動画関連事業	新規取組	R4～5で3件	0件	活用について検討し、次年度に外国語字幕をつけることで、狂言を日本以外でも見ってもらうことを実施する予定です。
			プロデューサーによるWEB版研究紀要公開【欄追加】	新規取組	R4～5で4本以上	R4～5で2本	雅楽の解説、新聞への寄稿で、5年度は計2本で未達成でした。R6年度は、解説文など順次webに掲載していく予定です。

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
(2)施設運営	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供 【使命3】	1 施設の基本的な提供	■開館時間9:00-22:00	4-12月	実施	適切に実施しました。	【成果】 施設利用者に対しては、ニーズの聞き取りなどを行い、代替施設の情報を提供しました。施設の貸し出し手続き以外の対話をあらためてすることで、関係性の構築につながりました。  【課題】 休館中も1年に一回程度、お知らせを送るなど再開館時に戻ろうと思ってもらえるような関係性を継続します。施設自体は稽古場としては利用しやすいものの、アクセスから敬遠されることも考えられるため、それを乗り越える施設の魅力を伝えていく必要があります。 能楽堂でしかできないこと、能楽堂を利用したいと思われる施設の魅力を休館中に開拓していきます。	【評価する点】 ・通年で施設を利用するためのご案内や広報などを適切に実施したことを評価できます。  ・大規模改修工事による休館中の利用者の相談対応を実施し、市内の他施設へ引き続き利用者が別施設でも継続的に事業をできるようサポートしたことが確認できます。  【更なる取組を期待する点】 ・休館前から横浜能楽堂で定期的に利用している団体が再開館後も横浜能楽堂で継続して団体利用ができるよう、日頃からサポートすることを期待しております。
		■利用受付等対応時間9:00-20:00	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■能・狂言の利用を優先して受付	4-12月	実施	適切に実施しました。		
	2 相談対応	■能楽以外の公演利用の場合、能舞台の特性を十分に説明	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■ロビー・楽屋に「意見箱」を設置。	4-12月	実施	設置し、いただいた意見については対応を検討しました。		
	3 施設の利用促進に対する取組およびプロモーション	■施設空き状況のホームページでの公開	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■撮影/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■発表会の場としての第二舞台利用提案	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■研修室、楽屋の個人向け貸出の推奨	4-12月	実施	適切に実施しました。		
		■各種割引料金の利用推奨	4-12月	実施	初めての朝割は、3件の利用がありました。初めてのU25割と応援割は利用がありませんでした。		
	4 利用を促進する各種割引料金の設定	■各種割引料金の利用推奨	4-12月	実施	初めての朝割は、3件の利用がありました。初めてのU25割と応援割は利用がありませんでした。		
	5 休館中稽古場利用の相談 ★新規取組	■代替施設の情報提供相談	通年	実施	休館中の代替施設について、利用者に対し情報提供及び横浜にぎわい座などへの利用調整を行いました。		
		■施設利用の相談	通年	実施	適切に実施しました。		
	6 「バリアフリー能」でのサポート開発、バーチャル見学等の取組を実施。	■オンラインコンテンツ「おうちで楽しむ能楽堂」	通年	実施	新規の配信はありませんが、引き続き周知に努めました。		
		■英文公演解説の配布	公演時実施	実施	能・狂言を上演するすべての公演で英文解説を配布しました。		

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
(3) 来館促進 プロモーション事業	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
能楽堂の雰囲気を活かしたワークショップやオープナー、多彩な見学会など能楽堂の魅力を伝える事業 【使命4】	1 1 広報活動の強化により能舞台の文化的価値や横浜能楽堂の魅力を更に発信	□メールニュース配信	毎月1回	10回	休館前の4月～12月の9か月で10回配信しました。	【成果】 来館促進事業については、施設見学会や、入館前の来館者や施設見学会を組み合わせる事業などにより、休館前に多くの方に足を運んでいただけたようにしました。特に12月の特別見学会では、地域中心に広報したため、はじめて来館した方が58%、西区中区からの来場者が全体の30%を占め、より多くの方に知っていただくことができました。 横浜能楽堂の魅力については、SNSを活用し、単独の事業にとどまらない形で発信しました。 横浜能楽堂の能舞台だけでなく、館内すべての魅力を伝えるため、映像作家に依頼し、動画を製作しました。 【課題】 歴史ある能舞台を持つ恵まれた施設であることを、休館前に再認識できたことで、再開館に向けて何を伝えていくべきか、また休館中にどのような事業をどういった層に向けて行っていくべきかを意識することができ、未来を見据えた事業と施設運営をすることができました。 能舞台の魅力を伝えることで、足を運んでいただけきつかけになると考えます。R6年度より開始するOTABISHO 横浜能楽堂で、模型や動画を使って魅力のアピールをしていきます。	【評価する点】 ・休館直前まで横浜能楽堂や本舞台の魅力を伝える施設見学会や和に関するワークショップやオープナー併せて実施し、目標を上回る来場者が横浜能楽堂を知ることができました。使命4の取組を実施したことが確認でき評価できます。 ・大規模改修工事による休館中の利用者の相談対応を実施し、市内の他施設へ引き続き利用者が別施設でも継続的に事業をできるようサポートしたことが確認できます。 【更なる取組を期待する点】 ・休館前から横浜能楽堂で定期的に利用している団体が再開館後も横浜能楽堂で継続して団体利用ができるよう、日頃からサポートを実施できることを期待しております。 ・能楽や横浜能楽堂の魅力をSNSで発信し、目標を大幅に達成することができました。若年層はWEBページよりもSNSで情報を獲得されるため、見やすくわかりやすい情報を発信すると来館される人数がさらに増加する可能性があります。今後も継続して実施できることを期待しております。
		■施設紹介動画の配信と積極的な広報	実施	実施	昨年度からスタートした狂言堂シリーズ動画のほか、中締め公演の出演者インタビューを数多く公開しました。		
		□SNSによる発信	250回以上	542回	横浜能楽堂インスタグラムを開始し、若年層へのアプローチを試みました。事業情報や報告など、主にXで積極的に実施しました。次年度のOTABISHO開設に向けて、専用インスタグラムの発信の準備をしました。		
	2 2 能楽堂の雰囲気を活かした和のワークショップやオープナーを開催し、能楽や能舞台への関心を高める。	■和のものづくりワークショップと能楽堂見学(2回)	実施 30名	実施 2回 49名	「着物をほどこ」と横浜能楽堂見学、「袱紗を縫う」と横浜能楽堂見学を各1回実施。定員15名のところ、応募者が多数のため増員し、「着物をほどこ」は20名、「袱紗を縫う」は19名の参加がありました。		
		■伝統文化一日体験オープナー(1回)	全1回 500名	1回 1156名	神奈川県立音楽堂の「子どもと大人の音楽堂(子ども編)せかいほどもたち！」と同日開催し、予約不要で当日参加できるプログラムを増やしたことで、目標を上回る参加がありました。		
		■定例見学会 4月～11月 全7回	全7回	9回	9回合計で203名の参加がありました。		
	3 3 横浜市の有形文化財である能舞台を案内する多彩な見学会を開催する。実施日や参加方法を工夫し、多くの方の見学会参加を促し、地域の文化資源を紹介。	■休館前特別施設見学会 12月25日～27日 全3回 ★新規取組	全3回	2回	ガイド付き見学、芸術監督のお話、ガイドなしの楽屋の自由見学、手話通訳など多くのプログラムを2日間に凝縮して実施。合計で779人の来場者がありました。		
		■学校向け見学会 申込時随時子ども向けに説明内容を更新 ★内容更新	実施	実施	児童の関心を引きやすい語句や導入を工夫してガイドを実施しました。		
		■プライベート見学会の誘致 ★新規取組	9件	5件	休館前までに5回実施しました。		
		■観光ガイド向け説明会 ★新規取組	1回	未達成	次年度、OTABISHOで実施予定(対象:ホテルコンシェルジュ)		
		■バリアフリー見学会(全2回)	2回	2回	定例の「バリアフリー」ではなく、休館前特別施設見学会で手話付による見学ガイドを実施しました。利用者は0。		
		■多言語対応見学会	1回	1回	英訳付きの施設見学を実施しました。		
		■近隣町内会対象見学会(全1回・夏の夜)	実施	実施	西区主催の「虫の音を聞く会」と同日開催し、27名の参加がありました。		
		■オンラインコンテンツ 「おうちで楽しむ能楽堂」(再掲)	提供	実施	※再掲		
		■「ちょっと息抜きミニ見学」 動画配信	実施	実施	施設見学会告知、WS実施の様子、プロモーション動画告知などの動画を横浜能楽堂インスタグラムに5本配信しました。		
		4 4 ユニークベニューやMICE、撮影などの受け入れを工夫し、利用につなげる。	■利用料金のパッケージプランの提案	提供	実施		
	■撮影利用への対応		提供	実施	※再掲		
	5 5 ロビーや旧レストランなどを有効活用し、蔵書公開や能楽堂の紹介展示を行い、交流を促す。	■古典芸能に関する書籍や資料の公開	実施	実施	1階ロビーで書籍閲覧を可能としています。一般見学をしていないこともあり、ご利用はほとんどありませんでした。		
		■能楽堂の由来や特色、沿革等を紹介する展示	実施	実施	2階展示廊常設展「能・狂言の世界」で能楽に関する基礎知識を、毎月の施設見学で能舞台の由来や特徴などを紹介しました。		
		■公演映像を使った能楽の紹介	実施	実施	YouTubeチャンネルで随時動画を公開しました。		
	6 6 近隣文化施設5館で構成する「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」で地域全体の広報活動を行う。	■紅葉ヶ丘エリアの一体的な広報活動の実施	実施	実施	毎月1回以上の会議に出席し、11月3日の連携事業では、町内会掲示板への事業チラシ掲載を行いました。新たに伊勢山皇大神宮にスタンプラリーポイントとして参加していただきました。		
■各施設間での連携事業の実施		実施	実施	オープナーは神奈川県立音楽堂と同日開催の他、横浜市中央図書館と横浜市民ギャラリー、伊勢山皇大神宮と連携して、事業実施をしました。和のWSは横浜市民ギャラリーの協力を得て実施しました。			

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
(4)施設管理	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
経年劣化や不具合に適切に対応し、安心・安全な施設を維持【使命5】【使命6】	1 安全で快適な施設としての維持	(1) 維持管理の基本方針	■保守・点検を確実に遂行	実施	実施	業務の基準に則り適切に実施しました。	【成果】 施設管理については、開館27年目を迎え施設や整備の老朽化や不具合が進行していますが、日常点検を適切に行い、休館までトラブルなく施設運営を行うことができました。  【課題】 改修工事の計画・状況について、工事側から必要な情報を適宜提供いただき、コミュニケーションを取っていくことで再開館後のスムーズな運営につなげます。  【評価する点】 ・施設を日常的に点検を実施し、新たな修繕やトラブル等がなく施設運営を実施することが確認できます。  【更なる取組を期待する点】 ・リニューアルオープン後の横浜能楽堂(本館)及び新たな拠点になるOTABISHO横浜能楽堂のどちらにおいても、利用者が安心して施設内を利用できるように、こまめに確認するよう努めてください。
			■専門業者に継続して委託	実施	実施	同上	
			■法令の遵守	実施	実施	同上	
			■日常的に状態を精査	実施	実施	同上	
		(2) 修繕	■小破修繕の適切な実施	実施	実施	同上	
			■不具合懸念箇所のリスト化	実施	実施	大規模改修項目に即して所管課に共有しました。	
			■修繕優先順位付け	実施	実施	大規模改修項目については応急処置を行いました。	
			■緊急修繕に速やかに対応	実施	実施	館運営に関わる緊急修繕は発生しませんでした。	
		(3) 防災・防犯等	■防災訓練の実施	1回	3回	訓練内容を工夫(公演中止を伴う避難訓練/焙じ室消火訓練)して実施しました。	
			■駐車場事故防止	実施	実施	事故は発生しませんでした。	
			■施設損害賠償保険への適切な加入	実施	実施	適切に実施しました。保険適用の事例はありませんでした。	
		(4) その他、安心、安全な施設運営	■新型コロナウイルス感染拡大防止等感染症対策	実施	実施	市のガイドライン等に即して適切に対策を講じました。	
			■AEDの配置	実施	実施	B1事務室及び1階受付の2カ所に設置しています。	
			■全員が救急救命講習を受講済	実施	実施	防災訓練の際、AEDの位置や手順について確認しました。	
		(5)収支	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	
助成金など指定管理料以外の収入の確保と徹底した経費削減【使命5】	1 利用料金収入等の獲得努力[再掲]	■施設空き状況のホームページでの公開	実施	実施	※再掲	【成果】 自主財源である事業収入と利用料金収入については、予算を上回って獲得することができました。多くの公演でチケット売上が目標を上回ったこと、本舞台の本番利用が例年よりも多く入ったことなどが要因です。支出については、移転関係で当初想定していなかった経費が発生したことなどにより、予算を超過しました。  【課題】 休館中は、利用料金収入がなくなり施設管理費の内訳が変わるなど、収支構造が大きく変わります。また、施設の外で事業を実施するため、安定的なチケット収入が見込めないことに加え、事業実施のための費用が大きいかかと想定しています。そのなかで、休館中ならではの条件で自主財源を獲得していく方法を検討し、実行していく必要があります。  【評価する点】 ・文化庁の補助金や企業からの寄付金を令和4年度から継続して、得ることができました。  【更なる取組を期待する点】 ・引き続き、文化庁の補助金や企業協賛金を今年度と同様に獲得できるよう取り組むことを期待しています。  ・大規模改修工事を実施することにより、例年より収支バランスが取りづらくなります。横浜能楽堂(本館)、OTABISHO横浜能楽堂の両施設の施設管理を並行しながら実施するようになるため、今後の運営において、必要な経費を計算し、休館中も他の手法で自主財源を確保できるよう取り組んでください。	
		■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	実施	実施	※再掲		
		■撮影/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	実施	実施	※再掲		
		■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	実施	実施	※再掲		
		■発表会の場としての第二舞台利用提案	実施	実施	※再掲		
		■研修室楽屋の個人向け貸出/の推奨	実施	実施	※再掲		
		■各種割引料金の利用推奨	実施	実施	※再掲		
	2 ユニークベニュー利用・撮影利用等の誘致	■「ユニークベニュー」としての能楽堂の売り込み	実施	実施	HPでの案内を継続。コロナ禍の継続により積極的な売り込みは控えました。		
		3 自主事業収入の確保	■公演趣旨に応じた料金水準の設定	実施	実施		利用希望がありませんでした。
			■プライベート施設見学会の誘致(再掲)	実施	実施		※再掲
	4 助成金収入の獲得	5 事業協賛金、寄附金の獲得	■補助席の販売	実施	未達成		早々に完売し実施を検討した公演もありましたが、ろうそく能のため、避難経路を十分に確保することを優先し、結果として実施しませんでした。
			■友の会制度	実施	実施		12月までの期間で実施、休館に伴って一旦制度を廃止しました。
			■メール会員制度	実施	実施		チケットシステムでの購入者のうち、希望者約5000名に対して配信。
	6 経費削減・効率的運営に向けた取組	5 事業協賛金、寄附金の獲得	■文化庁等助成金獲得	実施	達成		R5年度も獲得することができました。
			■企業からの協賛金、寄附金を獲得	実施	達成		少額ながらご支援をいただき、今年度は使途を限定しない寄附を横浜狂言堂で活用させていただきました。
			■入札/見積合わせによる発注価格の抑制	実施	実施		適切に実施しました。
			■印刷物発注数量の見直し	実施	実施		適切に実施しました。
	6 経費削減・効率的運営に向けた取組	6 経費削減・効率的運営に向けた取組	■継続した省エネルギーへの取組	実施	実施		利用者来場者就業者に影響のない範囲でエネルギー経費削減に努めました。
			■利用状況に応じた職員勤務時間の設定	実施	実施		夜間利用時の運番対応などきめ細かく対応しました。

令和5年度 横浜能楽堂 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	実施	実施	適切に実施しました。	【成果】 横浜能楽堂の使命は何か、社会から期待されていることは何か、という点について、職員間で話し合いを続け、それにそって次年度の事業計画を策定しました。そうした過程を踏むことで、職員に事業計画や社会的意義などをより意識するようになりました。 人材育成については、専門人材研修に3名が参加し、財団の他施設の職員とともに主に社会との関わりを考えながらの事業企画に取り組みました。	【評価する点】 施設職員間で意見交換をし、様々な課題の話し合う場を設けたことについて、評価することができます。  【更なる取組を期待する点】 ・休館前の事業実施や移転準備により、人権に関する取組について、「未達成」となりましたので、次年度は計画的に実施できるよう努めてください。  ・個人情報の取扱いについての取扱いが年々厳格化されています。日常の個人情報のチェック体制については、どのように体制を整えるのが良いか職員間で共有してください。また、繁忙期については、処理時間を求めるのではなく、正確性が大切ですので、その点も踏まえて検討してください。
		□管理運営月報等をモニタリングにおいて報告	実施	実施	適切に実施しました。		
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施	適切に実施しました。		
		□事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施	完了確認表をモニタリングで提出しました。		
	3 業務評価の実施	□自己評価	実施	実施	・仮決算の状況をモニタリングで報告しました。 ・年度終了時の各種報告書を作成しました。		
(7) その他	指定管理者提案	取組内容	目標	実績	説明	【課題】 指定管理業務においても、外部資金獲得にあっても、自己評価の重要性が増しています。目標に対する評価項目の設定など、引き続き検討していきます。 人材育成は継続している課題ですが、引き続き取り組んでいきます。	
1 市の重要政策課題への対応	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応	実施	実施	適切に実施しました。		
		□職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施	1回	1回	適切に実施しました。		
		■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備	実施	実施	適切に実施しました。		
	2 情報公開についての取組	■当財団の「保有する情報の公開に関する規定に基づき財団事務局が窓口となり適切に対応	実施	実施	適切に実施しました。		
		■事業計画書・事業報告書を期日までにホームページで公開	実施	実施	適切に実施しました。		
	3 人権尊重についての取組	□市/区主催の人権研修に積極的に参加	1回	未達成	休館前の事業実施・移転準備等で実施の機会が得られませんでした。		
		□職場内研修で人権をテーマ化	1回	未達成	休館前の事業実施・移転準備等で実施の機会が得られませんでした。		
	4 環境への配慮に関する取組	■持ち帰りの推奨等により施設内で発生するごみの量の削減	実施	実施	適切に実施しました。		
		■チラシ/パンフレット印刷枚数の適正化	実施	実施	適切に実施しました。		
		■館内照明設備修繕時のLED化の推進	実施	実施	大規模改修を見据え、日常営繕の範囲で実施しました。		
		■館内換気の推進と快適な環境維持とのバランスに配慮した電力利用	実施	実施	利用者来場者就業者に影響のない範囲でエネルギー経費削減に努めました。		
	5 障害者差別解消	□「バリアフリー研修」開催による障害に対する意識の喚起とより実践的な対応スキルの具備	1回	1回	職員2名が、バリアフリーの専門的な研修に参加しました。他館の事例なども学び、今後の事業企画の参考になる大きな学びとなりました。		
	6 男女共同参画	■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくり	実施	実施	適切に実施しました。		
	7 市内中小企業優先発注についての取組	■原則として業務委託と物品購入は横浜市有資格者掲載者或いは市内在住者/業者に発注	実施	実施	適切に実施しました。		
	2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施		適切に実施しました。保険適用の事例はありませんでした。
		2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じて関係法令を順守	実施	実施		適切に実施しました。
		3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は即日報告とし、随時共有	実施	実施		設備不具合等、都度報告を行いました。
			■「文化施設指定管理者連絡会議」他、必要な会議への出席	実施	実施		適切に実施しました。
	4 専門人材の育成	■掃部山公園管理者との日常的な情報共有	実施	実施	適切に実施しました。		
		■専門人材研修(財団主催)、外部研修への参加	実施	実施	財団主催の舞台芸術専門人材研修に3名が参加したほか、外部の研修にも積極的に参加しました。		

評価	
自己評価	行政評価
<p><b>【成果】</b>                      大規模改修を控えた本年は、開館以来の横浜能楽堂の存在感を市内外や地域にアピールするとともに、休館期間及びリニューアルオープン後の展開を見据えた取り組みを行いました。                      自主事業では、企画力を生かした公演や、一流の出演者による特別公演など、横浜能楽堂ならではの公演を行い、既存のファンや新しい観客から評価を得ました。                      使命1で目標としていた券売率は、すべての項目で目標を上回り、特に中締め琉球芸能、能・狂言2公演は100%を達成しました。                      中締め公演の「琉球芸能600年」は「沖縄タイムス」(5年9月10日、5年9月15日)、「琉球新報」5年9月27日)に大きく取り上げられ、見出しで「琉球伝統芸能 全国に発信」や、出演者の言葉として「横浜能楽堂への出演は琉球箏曲を続けていく力になった」と、琉球芸能を本土に紹介し続けてきた横浜能楽堂の取組に高い評価を得ました。                      使命2では確実に実施し、参加者を集めることを目標としました。教育プログラムは、今年度も目標の5校を達成しました。                      使命3では、休館を前に、施設利用者にも代替施設の案内をするなど、サポートに務め、再開館に向けて関係性を維持していくことを目指しています。使命3のすべての公演での英文解説の配布も、全19公演で実施しました。                      また、使命4で掲げているSNSでの情報発信は、目標250回のところ542回と倍以上の数値を達成しました。                      使命5では、自主財源の事業収入と利用料金収入は、チケット売上が目標を上回ったこと、本舞台の本番利用が例年よりも多く入ったことなどにより、合わせて対予算で117%と上回ることができました。                      施設管理についても、担当部署と情報を共有しながら休館に向けた準備を行いました。                      以上のように、事業、貸館、施設管理すべての面において、休館とその先の再開館を見据えた運営ができました。収支においては、当初予算の想定を超えた費用がかかりましたが、事業の売上増などにより一部をカバーしています。</p> <p><b>【課題】</b>                      年度後半は、事業や移転準備に追われたため、再開館後の運営のシミュレーションなど、施設運営において検討しなかったことができませんでした。休館中に遅滞なく取り組んでいきます。                      休館期間は、積極的な事業展開や再開館に備えた準備に時間をさけるよう、目的を全員で共有した上で、業務分担を見直し、柔軟な組織体制を構築していきます。</p>	<p><b>【評価できる点】</b>                      ●使命1(能、狂言その他の古典芸の振興・発展に寄与する)の取組として、大規模改修工事を見据え、公演テーマを「中締め」とし、様々な能、狂言だけでなく、関連する伝統芸能と結びつけた事業を実施しました。各公演でのお客様アンケートでの高い満足度や、新聞・雑誌記事での高い評価を得ているに加え、各公演についても、目標設定を上回る入場者を獲得でき、横浜能楽堂の企画力が古典芸能の振興に寄与したものと評価します。                      ●使命2(能楽等に携わる人材を育む)                      「こども狂言堂」でのわかりやすい解説等、こどもにも理解できる企画の実施により、事業参加者の満足度「4.79」は指標「4.5以上」を超えるものとなりました。次世代育成を着実に進めています。                      ●使命3(能楽等をはじめとする市民の活動の場となる)                      利用率は本舞台53%(指標39%以上)、第二舞台67%(指標52%以上)と指標を達成し、市民の活動の場として多くの皆さまに利用いただくことができました。                      ●使命4(能楽等や施設の魅力を発信を行う)                      横浜能楽堂及び本舞台の魅力を発信する事業として、施設見学会を目標より多く実施し、年末にも特別見学会を新規に実施したことで、近隣区からもはじめての来館者も得ました。休館直前まで、横浜能楽堂の魅力発信を実施することができたことを評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b>                      ●使命2(能楽等に携わる人材を育む)                      小学生だけでなく、中学生、高校生といった世代にもターゲットとした事業を展開することで、次世代育成を切れ目なく実施することができるのと同時に、様々な気づきが得られるのではないかと思います。                      ●使命3(能楽等をはじめとする市民の活動の場となる)                      本舞台及び第二舞台の利用率は高かった一方、新規利用向け割引制度利用数が未達となりました。どのような方が利用されているのか、利用可能性のある方がどの程度存在するのか等、分析が必要です。                      ●使命4(能楽等や施設の魅力を発信を行う)                      広報やSNSでの発信を多く確認ができる一方で、横浜能楽堂の市民認知度が60.9%と指標(65%以上)に達しませんでした。休館中の仮事務所であるOTABISHO横浜能楽堂への移転をチャンスにし、新規利用者や認知度が高くなるよう、様々な手法での事業を実施することを期待します。                      ●使命5(持続可能性を高める施設運営を行う)                      施設運営については、長期休館に加え、OTABISHO横浜能楽堂での事業が始まることで、2拠点で並行しながらの施設管理となります。施設管理体制についての対応方法や収支のバランスを確認しながら取り組んでください。</p>